

**Japanese B – Higher level – Paper 1**  
**Japonais B – Niveau supérieur – Épreuve 1**  
**Japonés B – Nivel superior – Prueba 1**

Monday 9 November 2015 (afternoon)

Lundi 9 novembre 2015 (après-midi)

Lunes 9 de noviembre de 2015 (tarde)

1 h 30 m

---

**Text booklet – Instructions to candidates**

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for paper 1.
- Answer the questions in the question and answer booklet provided.

**Livret de textes – Instructions destinées aux candidats**

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

**Cuaderno de textos – Instrucciones para los alumnos**

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

Blank page  
Page vierge  
Página en blanco

## 問題 A



## スポーツで社会を平和に

ためすえだい

## 為末大さん

ためすえだい

為末大さんは400メートルハードルでオリンピック3大会に連続出場しました。引退してから1年になりますが、「スポーツで社会を平和に」という大きな目標<sup>もくひょう</sup>にむけて、走り続けています。為末<sup>ためすえ</sup>さんにインタビューしました。

Q: [-例-]

A: 6秒台後半から7秒ぐらいでした。

Q: [-4-]

A: 中学校3年生までは、100、200メートル走ともに日本一でしたが、成長はそこまですました。高校生<sup>こうはい</sup>のときには、後輩<sup>こうはい</sup>に負けてしまいました。そこで、ハードルのほうが自分の性格にむいていると考えて、種目を変えました。

Q: [-5-]

A: 400メートルハードルは全力で行くには長すぎるし、たんたんと行くには短すぎます。色々考えて走らなければいけないのが特徴<sup>とくちょう</sup>です。

Q: [-6-]

A: 年間7、8校の小学校へ行って走りかたを教えています。走る基本<sup>きほん</sup>は体をまっすぐにすることです。走るこつは頭からぼうが一本、体を通っている感じです。

Q: 言葉だけでイメージが わきますね。

A: 僕は19才のときからコーチはいません。自分で自分を教え、管理<sup>かんり</sup>してきました。でも、技術はあっても、走りかたを人に言葉で伝えるのは難しいですね。

Q: [-7-]

A: スポーツで社会を平和にする活動をしていきたいです。スポーツの力を信じています。広島出身のせいか、平和が意識からはなれません。平和についてツイッターを通して発言し、色々な人からおもしろい意見をもらっています。平和についてみんなで考えていくことは大事ですね。

参考：2013年6月3日づけ朝日小学生新聞

## 問題 B

## 国に合わせて工夫しています



最近、東南アジアの国々の経済が成長していることから、日本に旅行に来る人が増えています。日本の店や旅館などでは、気持ちよく過ごしてもらおうと工夫を重ねています。

5 9月のある日、<sup>しんよこはま</sup>新横浜<sup>はくぶつかん</sup>ラーメン博物館でラーメンをすする女性がいました。インドネシアから来たエリック・レトノ・スサンティさんが食べていたのは、「ベジタリアン・ヌードル・サムライ」です。やさいを中心とした食事をする人や、スサンティさんのようなイスラム教徒むけに、イスラムの教えで禁じられている <sup>ぶた</sup>肉やお酒などを使わないで作ったラーメンです。スサンティさんは「安心して食べられました。インドネシアから来る友だちにも <sup>すすめます。</sup>と喜んでいました。

10 他の取り組み【-例-】あります。千葉市のホテルスプリングスでは、イスラム教徒の【-12-】、特別な「ハラル」の食品を使って料理を作っています。「お酒やみりんを使わないで、日本の<sup>でんとうき</sup>伝統的な味を出すのが大変でした【-13-】。工夫を重ねる【-14-】、食のバリアフリーを目ざしています。」と料理長が話していました。【-15-】、おいのりが客室でもできるように、フロアマットや方位コンパスなど

15 必要な物を50セット用意しました。

東京新宿区にある「いせたん新宿本店」では、外国人の買い物客が去年に比べて2倍に増えました。店内のあるカウンターでは、スタッフが母語で<sup>たいおう</sup>対応してくれることが、外国人に喜ばれる一つの理由です。マネージャーは、「東京オリンピックも決まり、今後も外国人のお客様は増えるでしょう。おもてなしの心を持って<sup>たいおう</sup>対応していきたい。」と話していました。

20

## 問題 C

## さわって広がれ こうきしん 好奇心

- ① パソコンで調べた物が 3D プリンターで立体的な かたちになつて出てくる「さわれる検索」けんさくをインターネット会社が作りました。そして、今その機械を目が弱い子どもたちが通う学校で試験的に使ってもらっています。さわったことがない動物や乗り物に子どもたちは大喜びでした。
- ② 機械は副校長室ふくにあつて、休み時間になると、たくさん子どもたちが集まってきました。ボタンをおしながら調べたい物を こえに出して言うと、3D プリンターから とけたプラスチックが出てきて、立体的なモデルを作り始めました。
- ③ 「ピラニア」と言ってみた相原君。次の授業を終えて副校長室ふくにもどつてくると、手に入るほどの大きさのモデルが できていました。何度も ゆびで なぞっているうちに、「痛い！」と こえを上げました。するどい歯はに さわったからです。
- ④ 相原君は生まれつき目が弱く、目の前にかなり近づけないと、物の かたちが分かりません。ピラニアは、先生やお母さんから「肉食の魚」と教わっていましたが、どんな魚かと気になっていました。「実際にさわると、肉食なのに口が小さくて、びっくりしました。」と、楽しそうでした。
- ⑤ モデルを いんさつするには、データが必要です。今は犬や ねこなど簡単な物から、ロケットや東京スカイツリーなど細かくて複雑ふくざつな物まで約 150 のデータが入っていて、多くても 2 時間ほどで いんさつ できます。今後、色々な会社からデータをもらって、増やしていく予定です。
- ⑥ 副校長先生ふくは、「モデルにさわって、頭にあるイメージをかくにんする子どもが多いです。今後も、実際に物に さわって、物の全体を知ってもらいたいです。」と話していました。



参考：2013 年 9 月 27 日づけ朝日小学生新聞

ひみつの全てが おさまっているのかもしれない。  
何歩か歩いてから ふり返ったとき、彼女の すがたは  
すでに人ごみの中に消えていた。

(村上春樹<sup>はるき</sup>「カンガルー日和」一九九六年)

## 問題 D

## 四月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて

四月のある晴れた朝、原宿のうら通りで僕は100パーセントの女の子とすれ違う。

〈中略〉

彼女は東から西へ、僕は西から東に 歩いて歩いていた。とても気持ちの良い四月の朝だ。

たとえ三十分でもいいから彼女と話をしてみたいと僕は思う。彼女の身の上を聞いてみたいし、僕の上を うちあけてもみたい。そして何よりも、一九八一年の四月のある晴れた朝に、われわれが原宿のうら通りで すれ違うに いったつた運命の経緯けいゐのようなものを解き明かしてみたいと思う。きっとそこには平和な時代の古い機械のような温かい ひみつが みちているに違いない。

われわれは そんな話をしてから どこかで昼食をとり、ウデイー・アレンの映画でも観て、ホテルのバーに よってカクテルか何かを飲む。

〈中略〉

可能性が僕の心のドアをたたく。

10 僕と彼女の間の きよりは もう十五メートルばかりに近づいている。

さて、僕は いったい どんな風に彼女に話しかければいいのだろうか？

「こんにちは。ほんの三十分で いいんだけど僕と話をしてくれませんか？」

ばかっている。まるで保険ほけんの かんゆうみたいだ。

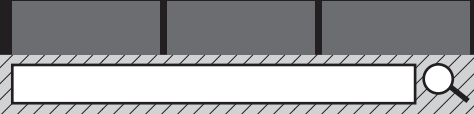
「すみません、このあたりに二十四時間営業のクリーニング屋はありますか？」

15 これも ばかっている。だいいち僕は洗濯物せんたくものの ふくろさえ持つては いないではないか。 〈中略〉

花屋の店先で、僕は彼女とすれ違う。温かい小さな空気の かたまりが僕の はだに ふれる。アスファルトの舗道ほどうには水がまかれていて、あたりにはバラの花の においがする。僕は彼女に こえをかけることもできない。彼女は白いセーターを着て、まだ切手の はられていない白い かくふうとうを右手に 持っている。彼女はだれかに手紙を書いたのだ。彼女は ひどく眠そうな目をしていたから、あるいは一晩かけて それを書き上げたのかもしれない。そして その かくふうとうの中には彼女についての

## 問題 E

## ふくしまカフェ



2013年2月12日

## ふくしまカフェ、オープン



ふくしま よこはま ひなん  
 福島県から横浜に避難している人や、そんな人をサポートしている人のためのカフェができました。このカフェには、ふくしまの新聞があつて、ふくしまの最新情報を知ることができます。また、ふくしまの名物もたくさん用意してあります。避難している方にソフトドリンクとふくしまのおかしを無料で差し上げています。お友だちにもこえをかけて、ぜひ遊びにいらっしゃってください。

2014年5月10日

## ゴールデン・ウィーク明けのふくしまカフェ



春の新学期をむかえたからなのでしょう。大学生が、ふくしまカフェにたずねてくるが多くなりました。大学の授業の課題の一つとして、よこはま市内の避難者のお話が聞きたいという願いがいくつかきています。プライバシーの問題上、直接避難者の方をしようかいすることはできないのですが、こちらの事務所の話でもよければ、たいおう対応させていただいています。すでに地震から3年も経って、人々の意識が少しずつはなれてきているので、関心を持ってもらうためにこのようなたいおう対応は大切だと思います。

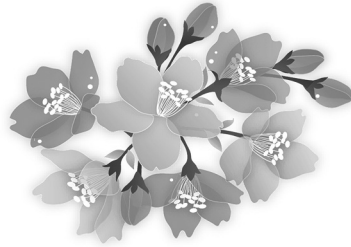


---

2015年3月31日

## もう さくらの季節

気がつけば、3月も最後の日となっていました。春の高校野球やきゅうも始まっているようだし、さくらの花もさき始めています。先日、福島ふくしまに住んでいる小学生たちを横浜よこはまの野島公園のじまに むかえて、いっしょに遊んできました。この子どもたちは普段は外で遊ぶことができないので、今回の晴天の中、思いっきり走り回っていました。こちらで計画したプログラムより自由時間に みんなで ただ走り回っているほうが楽しかったようです。4泊5日のプログラムが終わって、子どもたちとの別れは さびしかったです。子どもたちは、みんな元気な顔で福島ふくしまに帰って行きました。



---

参考 : [www.blog.canpan.info/fukushimacafe](http://www.blog.canpan.info/fukushimacafe) (2015)

---